



# しら

昭和63年1月号



十三湖の白鳥

## 年頭のごあいさつ 村づくり元年 生涯教育の充実



市浦村長 三重 貢

新年おめでとうございます。  
輝かしい新春を迎えるにあたり、皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

今年、三十年來の願望でありました役場庁舎の竣工とともに、木造建築物では日本一の高さを誇る林野庁指定のモデル施設が併設されることになりました。

また、国土庁のモデル事業として昨年暮れから建設を進めてきた地域活性化センターも、十月にはオープンする予定となっております。

これに加えて、村民一人一人が住むに備する地域創造をめざした「村づくり計画」も三月までに各申される運びとなっております。これを契機に本年を「村づくり元年」と位置づけ、行政は住民のものであるとの認識のもとに、更なる飛躍を求めて努力して

く所存であります。

地域振興の原点は、新しいモノや、コトを創造していくエネルギーを蓄積することであり、このため優れた人材の誘致や招へいを図り、情報の集積度を高め、生涯教育の充実を図るとともに、相内小学校の建設準備にも着手します。

また、若者に魅力のある第一次産業の高次な開発を進めるためのヒノキチオールの企業化等にも積極的に取り組むほか、津軽海峡線と歴史資源を生かした交流による観光立村を強力に進める考えであります。

村民皆様のご理解、ご協力と積極的な参加をお願い申し上げます。

どうか今年もお元気に過ごされますことをお祈り申し上げます。年頭のごあいさついたします。



# 新年おめでとう入りがけごます紙上名刺交換会

## 住みよい

### 村づくり



村助役 藤 誠一郎  
工藤 藤 誠一郎

新年おめでとうございませう。力不足のまま一期を終わり、

昨年五月に再任を得ましたがよろしくご指導ご協力を賜わりたいと思っております。今年も、役場庁舎の新築など、気分の新なることが多くなるようです。みんなで作る市浦村、むすかしい世の中ですが、お互いに知恵を出し合せて、住みよい村づくりにあたりたいと思っております。

## 新年も

### 村民一体で



村収入役 義 衛  
成田 義 衛

新年おめでとうございませう。昨年、村民のみなさんの

ご指導を得て、大過なく終わりました。心から感謝いたします。安東文化のふるさとづくりをテーマに展開する行政の中には、教育、農林漁業、福祉、観光など、種々多角的な振興策があると考えられます。今年も、全村でつとめてのご協力を得て、前進できればと希っております。

## 忍耐強い

### 子どもに



村教育委員 長 夫  
安 保 豪

今日、教育は大きく変動しており、「忍耐」のない子供

達が多く目につくようになってきました。「忍耐」のある明るい健全な子供に育てあげるため、学校教育はもちろん、親子の絆を大切にしなければなりません。口で教えるより、見せる教育をモットーとして、これからの時代を担うたくましい人間に育てあげよう、努力したいと思っております。

## 地域の

### 発展に努力



市浦営業林署長 一 俊  
市浦 高 橋

年が改まりまして、林業、林産業をとりまく環境は依然

として厳しいことが想定されますが、健全で活力に富む緑豊かな森林を育てておくことが、私どもにも果せられた責務であることと銘じております。また、ヒバを主とする林産物を、安定的に供給し、林産業をはじめとする地域の産業振興のため、役割を果たして参りたいと考えております。

## 地域活性化へ

### お手伝い



銀行長 小 治  
村 田 昇

明けましておめでとうございませう。今年、村役場が新築

されます事は村民の皆様には大変意義ある年でありましょう。これ迄村行政の積極的な村造りは着実に前進し実を結んでおられます。銀行では市浦村発展の為、お金の運用、「調達」のお手伝いや、各種市況などの「情報」提供等で皆様のお役にたちたいと考えておりますので何卒よろしくお願ひ致します。

## 若人に希望を



村選挙管理委員 長 美智雄  
村 田 昇

新年早々に、村議会議員の選挙が執行されますが、有権

者も立候補者も、将来への展望を持って、21世紀の指導者になるであらう若者に、夢と希望を与えてほしい。選挙のたびに若者が積み取られるような行政であってはならないと思う、若人は村にとってかけがえのない財産であり、明日へのエネルギーである。この選挙が住みよい市浦村建設の礎にならんことを祈る

## 長期計画に

### 創意と工夫



市農林業長 小 笠原 金 道  
小笠原 金 道

ふるさと創生、潤のあるまち、活力のあるむらづくりな

とは、竹下首相の施政である。ひとにぎりの大企業が引き起こしている貿易摩擦の中で、多くの中小企業や、千年の農業は迷惑をこうむっている。加えて、その弊先を最大大被害者である農民に向けてきている世論のもと、市浦村の長期計画には、地域住民の創意と工夫は欠くことのできない要素であろう。

## 信頼される

### 消防署に



市浦消防署長 佐 藤 哲  
佐藤 哲

市浦消防署は、昨年四月一日に、分署から消防署に昇格

となり、消防署としての権限業務内容についても拡大され職員一同心を新たに業務遂行に努力しております。これからも、防火意識の高揚に努めるとともに、親切と信頼、迅速と正確、活力とチームワークをモットーに邁進していきたくと思っております。年頭にあたり、村民みなさまのご多幸をお祈り致します。

## 育てる漁業で

### 所得の向上を



臨元漁協組合長 山 田 長 伝  
山田 長 伝

臨元漁協では、アワビ漁場の造成も終わり、中間育苗施設を建築中ですが、新年度は

工事も完了し、いよいよ本格のな10万個放流の年に入るわけですが、漁業振興、育てる漁業は時間も金も根気もいる仕事ですが、漁場の管理など組合が一丸となつてやり遂げなければなりませんと思っております。決意を新たにすべき年だと考えております。各関係機関のご指導をお願いいたします。



### 道を拓ける 人間の育成



高橋 光久  
教育委員会  
委員長

新春のお慶びを申し上げます。旧年中は、野球部の全国大会出場など村民各位から暖

かいご援助を賜り、厚く感謝申し上げます。「曲角にきた定時制教育」は教育の見なおしに入っています。地域にとつて相内分校はどうかあればよいのかを問いつつ、知識の量を増やすよりも、自ら何かを考え、何かを創りだし、道を拓ける人間の育成を目指したいと思ひます。

### 和をモットーに



高橋 正尚  
財政委員会  
委員長

村ではいま、地元の歴史や伝統、恵まれた自然を生かし「安東の里」づくりを進め

ています。さらに村の未来を村民と語りながら長期振興計画を策定中でありませう。天の時は地の利にしかず、地の利は人の和にしかず」と申しますが、何事も人の和によつて成就されることを肝に銘じ、地域をよくするために、昇竜の年を機に村民一体となつて頑張つてゆきたいものですね。

### 観光施設の 効率的活用を



村上 隆  
観光委員会  
委員長

十三湖中の島を中心としたリゾートパーク構想や安東文化のふるさとづくりは、本村

の観光振興に大きな実績と可能性を与えたいと思ひます。これら観光施設は、単に観光に携わる者だけでなく、活用が大切だと思います。そして、村外の人々にも、観光しうら。歴史のむららうらのイメージアップをはかりたいものです。

### 新春に思う



高橋 隆三  
管理委員会  
委員長

冬の十三は、まだまだ厳しく、春はいつのことやら。しかし、新しい年を迎えて

人々の顔が何故かすがすがしく感じ、会う人達の顔も心も新しくなつたような気がする。それぞれ新年に向つて意を期するところがあるためではなからうか。私も新しい年の始めに奮い、私も新しい年の始めの流れをじっくり読みとりながら、飛翔して参りたいと思ひている。

### 龍年を 飛躍の年に



高橋 正高  
村長

新年おめでとうございませう。安東のふる里我が市浦村は年々観光客も増え、駐在所で

扱う他県からの事故や地理教示の件数も多くなつています。唐川城跡の小丘からの眺めはまさかパノラマであり、中世の人々が美しい自然にめぐまれたこの地で、どんな言葉や表現で新年を迎えたのかと思つとロマンを感じます。今年も龍年、皆様にとつて飛躍する明るく良い年でありますようお祈りいたします。

### 一人一人が 村の礎



高橋 賢二  
警察署長

新年おめでとうございませう。年頭に当たり、昨年中の警察に対するみなさまのご協力

に感謝申し上げます。昭和六十三年へ向けて、新たに歩み始めるわけですが、法の番人として、市浦村の平穏を守るべく、「村の礎」となる村民一人一人のご理解とご協力の土に立つて、犯罪のない明るい地域づくりを目指し一層の努力を期したいと思います。



「歳時記」  
ます、お聞きします。あなたはこの正月、お年玉を何人に、いくらあげましたか。またお宅の子供さんはいくら、いくらもらいましたか。この額について、ある保険会社は昭和六十一年末に調査したものがあつたので、「いくらあげたつもり」、「いくらもらえそう」という子測なのですが、母親は平均七・二人に合計一万八千二百三十円、子供は七人から二万三千九百四十

## お年玉

最近では、物を贈答する風習があつたようです。年玉の語源は「年賜」だとい説もあり、丸いものこととする見方があります。最近では、年始のあいさつの際に「年賀」と書いたタオルやせつけんなどを持参することもあります。これもお年玉の一種です。今年も、この「お年賀」用に賀詞と名前が入つたテレホンカードも出ています。さて、お年玉といえは梁しみなのが、お年玉付き年賀葉書の抽せん会。今年は一月十五日に愛媛県松山市で行われます。



十三円となっています。金額の多いにも驚きますが、意外なのは、もう側より、出す側の予測が上回つていくことです。出す側にまだ余裕があるということなのでしようか。いまはお年玉というものが、子供にお金であげることが主になっていますが、室町時代あたりから武家や公家の間では、物を贈答する風習があつたようです。年玉の語源は「年賜」だとい説もあり、丸いものこととする見方があります。最近では、年始のあいさつの際に「年賀」と書いたタオルやせつけんなどを持参することもあります。これもお年玉の一種です。今年も、この「お年賀」用に賀詞と名前が入つたテレホンカードも出ています。さて、お年玉といえは梁しみなのが、お年玉付き年賀葉書の抽せん会。今年は一月十五日に愛媛県松山市で行われます。



福島城跡櫓門



山王坊の多目的四阿



中の島駐車場に完成した公衆便所

# 安東文化のふるさと 観光施設の整備着々

## 遊歩道・四阿(山王坊) 櫓門(福島城跡)完成

村内の文化的遺産を掘り起こし、住民の誇りと活力を呼び戻そうと、村では、昭和五十八年から十三湖中の島遊歩道橋を完成させ、昭和五十九年度には、「十三湖中の島ブリッジパーク構想」を打ち出しました。

単独補助事業である「過疎地域活性化プロジェクト事業」や、国土庁の「山村地域資源高度活用促進モデル事業」が相次いで指定されたことから「安東文化のふるさとづくり」や「木材加工・農・水産加工センター」の整備などが進められ、さらに六十三年度まで

事業が継続されます。六十二年度中に完成する施設としては、福島城跡に三百三十五万円を投じて、櫓門を新築したほか、昨年度から継続してきた山王坊遊歩道整備事業では、遊歩道、木の道、木橋など史跡ルート整備に六百五十万円、総ヒバ造りの多目的四阿には九百二十五万円の工事を投入しました。

そのほか、十三湖中の島駐車場には、六百七十五万円の工事費で公衆便所を新築、中の島キャンプ場に隣接させてバス、トイレ付きのケビンも完成させる予定です。

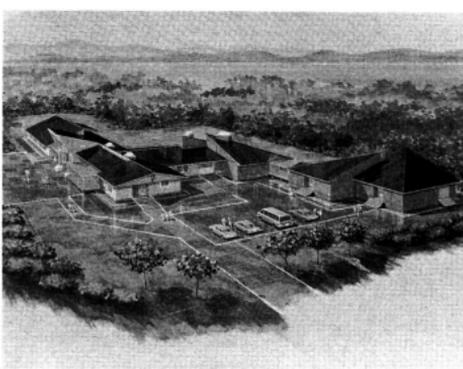
## 地域活性化の拠点施設

### 十三湖中の島公園に着工

# 10月完成オープン

安東文化のふるさと整備事業では、これまでに、安東氏の居城だった福島城跡、唐川城跡の遊歩道、展望所、四阿公衆便所などを建設、山王坊遺跡の発掘調査や大沼公園の整備と合わせて、史跡間を結ぶルートづくりを手がけてきました。

こうした史跡ルートとは別に、十三湖中の島で都市交流をはかるための拠点施設として、ローラースケート場やゴキカート場を整えるとともにキャンプ場や水洗トイレ、駐



十三湖中の島に建設中の地域活性化センター完成予想図

車場なども完成させました。県道磐ヶ沢・蟹田路線から木橋で結ばれた広さ十の島の島に、今回は観光の目玉施設として、「地域活性化センター」が着手されました。国土庁のモデル事業として建設される「地域活性化センター」は、総事業費約二億円。木造半屋建てで、歴史民俗資料展示室の部分が鉄筋コンクリートのはほかは、地場特産のヒバ材を使用します。建設面積一千十一・八二平方メートルの内は、木造部

分に都市住民との「交流コーナー」、特産品の「販売コーナー」、体験実習室「レストラン」等、鉄筋コンクリート部分の「歴史民俗資料展示室」四棟は、廊下で結ばれることになっています。同センターは、来年七月末日には完成する予定ですが、村では、全国に散逸している北方民族と安東との係わり、歴史民俗、民具等も収集し、「安東の拠点施設」にする考えです。

# 青森あすなるホール・しゅうら(仮称)

ヒバの集大成・関係者が注目

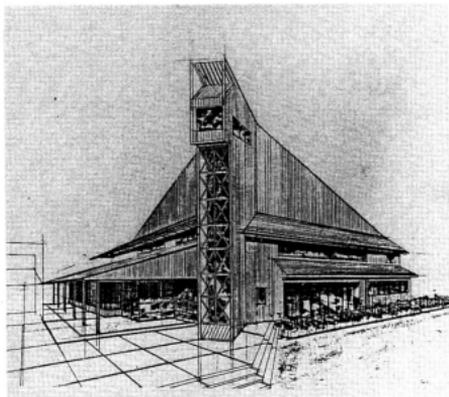
高さ19mの木造建築

ヒバの産地である本村では樹齢三百年の原木をそのまま活用するなど、ヒバをふんだんに使った木造建築物「青森あすなるホールしゅうら」の建設に着手しました。

昭和二十五年に制定された建築基準法は木造建築物に厳しい防火上の規制を加え、都市計画法上の防火地域、準防火地域では、三階以上の木造建築を禁止していました。しかし、「燃えやすい」と

いわれる木造住宅も、外壁をモルタルにしたり、太い柱を使うなどの工夫で、耐火性能が大幅に向上しました。今や耐火性能が劣るとして木造住宅を過度に規制するとは、時代にそぐわなくなっています。

こうした背景のもと、六十二年六月五日、建築基準法の一部が改正され、これまで長い間禁止されていた準防火地域での三階建て木造住宅の建



木造建築では日本一の高さを誇る青森あすなるホール完成予想図

## 役場庁舎と併設

建てられる「青森あすなるホール」は、展示ホールや村民ギャラリーラウンジ、多目的ホール、展望台など多目的完成後は木工芸センターで作られた木工品の展示や、村内外の見学者の交流の場作りを目指しています。

建物の特徴としては、同ホール建築材の全体の六十五割を地場特産のヒバでまかなうことで、建築関係者や観光客にヒバの良さを認めてもらうとともに、売り上げ上昇に結びつけることも狙っています。

同ホールは、敷地面積八千五百平方メートル、延べ床面積八千五百平方メートルの木造二階建てで総事業費は一億六千八百万円。柱や屋根を支えるアーチ材には、何枚もの板を特殊な接着材で重ね合わせて、柱に耐えられる太さや強度を備えた集材材を使うことになっています。

同ホールは、「一番広いギャラリー」室(約四百六十平方メートル)の中にも支柱は使わなくても済み、広い空間を作り出す予定です。「箱型工法」と呼ばれ、木造建築では異例の広い空間です。

同ホールは、厳しく冬場の建築を経て、来春には完成する予定です。

これまでの建築基準法では防災上の問題や、強度が足りないことなどを理由に、原則として十三メートルを超える木造建築は認められていませんでしたが「青森あすなるホール」は、特殊な技術で木材の強度を高めに、十九メートルまでの高さに仕上げます。

本村相内(診療所向い)に

## 氏子青年会がしめ縄奉納



しめ縄作りをする氏子青年会々員

「地域の人たちが健康で、幸せな一年を送るよう」と、十年前から実施され、毎年十月三十日には、地区子供会の協力を得て、村内を練り歩き、お不動山の可遇実智神社と洗磯崎神社に奉納、三年前からは、カゲ松作りも手がけ、洗磯崎神社前に飾り付けています。

最初のうちは、成田又四郎さんの指導を受けていたしめ縄づくりも、いまでは会員たちだけでも出来るようになり、

その出来映えは見事なもので、成田さんも太鼓判を押すまでになりました。

材料となるスケは、夏の間に会員たちが相内の大沼へ行つて知り取り、乾燥しておきました。

今回も十二月十三日から作業が始まり、毎日午後七時には、もや山のふもとにある舞台小屋に会員二十人が集まり、会の一年間の活動を反省したり、新しい年へ向けての抱負や世間話をしながら、慣れた手つきで作業をしていました。

同青年会の年間活動も、年末きりぎりしのしめ縄奉納で終え、新しい年を迎えることになりました。

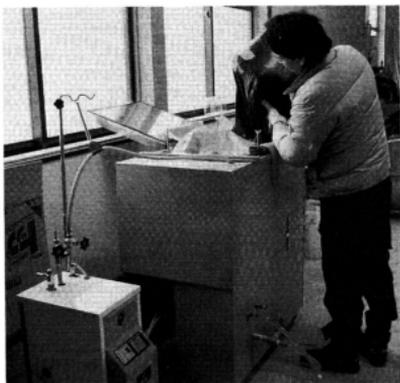
# 第一号機を本村に設置

## 産業おこしに期待

# ヒバ油抽出装置を導入

—全国的に注目ヒノキチオール—

## 実用化へ向け稼働



木材工芸センターに設置されたヒバ油抽出装置。企業化への期待は大きい

県工業試験場が技術開発に成功した、ヒバ油簡易抽出装置の第一号機が、去る十一月十七日、市浦村木材工芸センターに設置されました。

設置には、装置を開発した工業試験場の鶴賀誠好次長、装置考案者の岡部敏弘技師をはじめ村三役、村内七製材業者が出席しました。

ヒバ油抽出装置の稼働に先立ち、三重資材長は「地域資源の有効活用による地場産業

を模索している時に、用途が広く、全国的に注目されているヒバ油抽出装置の第一号機が導入できたことは、産業振興にはすみがつくものだ。今後は試験開発に努め、企業化に結びつきたい」と、あいさつしました。

また、県工業試験場の鶴賀誠好次長、岡部技師がヒバ油抽出装置の開発と、第一号機を本村へ設置することになった経過を説明し「何事にも積極的

に取り組んできたことが、よい結果をもたらしている。今後は産業振興の面で期待が寄せられている」と、あいさつしました。

このほど設置稼働させた装置は、県工業試験場の岡部敏弘技師が考案した第一号機で、ヒバの「おが粉」をホイラーで蒸し、水蒸気を冷却して、水とヒバ油を抽出します。

これを紙のフィルターで、水と油に分離すると十の「おが粉」から約百ccのヒバ油

がで、約二割のヒノキチオールが含有しています。ヒノキチオールは、青森産ヒバ油のほか、台湾ヒノキ油アメリカ産杉油に含まれていますが、特に青森産ヒバ油の含有率が高いといわれています。

ヒバ材からの抽出成分は、利用の範囲も広がっており、ヒバ油は、防腐剤のほか、白アリ駆除剤、着色剤、ヒノキチオールは、入浴剤、薬毛剤、防腐用紙、鮮度の保存用などに活用されており、村には現在全国の大手企業数社から問い合わせがあります。

県でもこれまでに、木材の防虫、防腐、着色剤、食品や家屋の消毒、殺菌剤、生油の天然防腐剤など、七件の特許申請をしており、りんご樹の大敵である腐乱病に対する抑制効果も実験段階にあり、関係者から大きな期待が寄せられています。

村では当面第一号機を稼働させ、ヒバ油の抽出検査を続け、ヒバ油含有量のチェックやコスト計算等を行います。今後は村内七製材業者での民間開発への指導も含め、抽出機の大型化、電気蒸留に代わる重油稼働によるコスト低減を目指しています。

# ジャンボな安全塔を設置

## 交通死亡事故ゼロに永遠の誓い



このほど設置された交通安全塔

て建てられたものです。塔は、ヒバ九太三本の骨組みに、全面反射シート使用のアルミ板製で、高さは台まで含めると九尺、幅九尺のジャンボ板です。

「教養がわかる、その運転」の標語が大書きされています。「ゆとりで走ろう安楽の里」の標語には、交通安全協会塔の設置には、交通安全協会の会員、役場、金本警察署の関係者が作業に当たりましたが、「少しでも運転マナーの向上につながり、交通死亡事故ゼロの記録が永遠に続いてくればよい」と話しています。

村では、一月一日現在で交通死亡事故ゼロ一千五百九十一日が続いており、「安全塔の設置を機会にさらに、ゼロへの進」を伸ばそう」と誓い合っています。

「ふれあい」と「連帯」

教育・文化・産業の交流を誓い合う

（奥州藤原三代ゆかり、平泉サミット）が、十月十七日、十八日の二日間、岩手県の平

泉町で開かれ、本村からは三重貴村長はじめ、豊島勝蔵村史編さん委員長、高松隆三企

画財政課長、瀧西安十郎教育次長らが出席しました。このサミットは、平泉町が六十年開催した八百年特別大祭の後年祭として呼びかけられました。

奥州藤原三代ゆかり  
平泉サミットに8市町村  
友好を温め交流の輪広げる



サミットには、藤原三代とかわりの深い市町村の代表が集まり、友好と交流を深めました。

サミット会議には、田辺市の生駒啓三市長、白鳥町の三島重郎町長、いわき市の鈴木栄取入役、最上町の中村仁町長、酒田市の小嶋茂太教育長、栗駒町の佐藤司教育長、本村からは三重貴村長、平泉町か

「八百年前には、平泉藤原三代を通じて文化、経済共に深い交流のあった市町村が、再び経済、文化共に昔のような交流をはかることよって、地域活性化の一助とする」ことを目的として開かれました。サミットには、藤原三代とかわりの深い平泉町、和歌山県田辺市、岐阜県白鳥町、福島県いわき市、山形県最上町、山形県酒田市、宮城県栗駒町、市浦村の八市町村が集まりました。

十月十七日には、記念講演が平泉郷土館で行われ、中尊寺本堂では法要が行われました。

十月十八日には、平泉町役場会議室でサミット会議が開かれたあと、毛越寺庭園では優雅な曲水の宴が開かれ、友好と交流を深めました。

その後、参加市町村が平泉とかわりについて、紹介しあい、八つの市町村の結びつきを強めるため、次の事項を話し合い、合意しました。

- 一、広報紙の交換。
- 二、市町村史や歴史の資料の交換。
- 三、各種イベントの案内及び特産品の交流。
- 四、小・中学生・団体などの人的交流。



「八百年前に結ばれたきずな」席上、穂積昭恵平泉町長が、平泉郷土館の齋木伸介館長がコーディネーターをつとめました。

友好と交流事項を合意したサミット会議



毛越寺庭園で行われた曲水の宴

みやびやかな  
平安貴族の遊び  
曲水の宴

サミット会議に続き、参加者からは毛越寺庭園での曲水の宴を見学しました。

曲水の宴には、六千人の見物客が集まり、平安貴族のみみややかな遊びに魅せられていました。

また、今回のサミットで八市町村が互いに手を携えて友好を深め合い、21世紀を展望した「まちづくり」の原動力として、教育・文化・産業の交流がはかられることを期待し、共同宣言、大回りの開催地を和歌山県田辺市に決定しました。



# 福祉は「共有財産」

与えられるだけでなく  
創り上げる福祉も

## 「87市浦村社会福祉大会 あすなる、つどい

第七回市浦村社会福祉大会が十一月二十六日、市浦村コミュニティセンターに、村民約百五十人が出席して開かれました。

大会では、青山又二市浦村社会福祉協議会長があいさつしたあと、地域社会に功績のあった七団体二名が表彰を受けました。

また、福祉大会を記念して十六名が市浦村老人クラブ連合会長表彰を受けました。



社会福祉大会には村民150人が出席しました

このあと、工藤誠一郎村助役が「福祉とは与えられることだけでなく、つくり出すもので、これぞよいというものではない。ホームヘルパーの増員、緊急電話の加入、老人集会所の整備など、一つ一つ充実させてきているが、隣近所仲よくすることが福祉の原点である。今後も社会福

祉が向上するよう頑張りたい」と、祝辞を述べました。

大会では、意見発表が行われ、市浦村老人クラブ連合会代表として石岡強一さんが、「今でこそ豊かで平和な日本がとりもどしたいが、共に苦勞してきた私たち戦時体験者は、今の若い人たちに命の尊さや苦しかった戦争当時のようすを語り継がなければならぬ」と、述べました。

村身体障害者福祉会代表の太田やよさんは「障害に負けてはいけない、生きることへの執念、自立更生への努力を積み重ねて社会参加を努力したい」と、発表しました。

また、施設代表十三保育所の高橋浩子さんは「お年寄りは村民の大先輩で、人生経験も豊富であるから、子供たちも勉強になるはず、保育所にも気軽に参加に来て」と、民生児童委員総務の越野清志さんは「在宅福祉を向上させるにはキメ細かな仕事が必要だ。人生八十年代を迎えて男性一人暮らし老人専用のホームヘルパーも必要、福祉対策には合う地域づくりが必要、隣近所仲よくしておくことが福祉のネットワークづくりに結びつく」と、意見発表、さらに老人家庭奉仕員を代表して和嶋タマエさんが「家庭奉仕員の仕事のむずかしさ」について意見を発表しました。

このあと、昼食をはさんでアトラクションが行われ、地区婦人会員による芸能発表を楽しみました。

◇受賞者次のとおり。

工藤ツセ(民生委員退任者) 湊理寺おてつき子(供食、協元陶芸教室一同、相内かえで子(供食、煤田光則、市浦村商工会婦人部、市浦農協婦人部、つくし会一同、相内百万湯会(以上、浄財寄贈者)

◇老人クラブ連合会長表彰受

たいたい」と、発表しました。

三浦直一、三和正一、三和タエ、三和ランコ(以上相内) 高橋勇一、相坂ちせ、時田キチ、若山スエ(以上十三)、葛西ワウ、三上サタ、成田タミ、台丸谷スナ(以上協元) 藤田そと、中山トシ(以上磯松、武田ソノ、武田ツル(以上太田)



老人クラブ連合会長から「長生きバンザイ」表彰状が贈られました。

「ともに生きる、明るく福祉の村づくり」

社会福祉活動は、住民一人ひとりの幸せに連なるものでなければなりません。社協の理念は、すべての人たちに正しい福祉の心、社会観をうり立てる福祉教育そのものであることです。

家族や地域の多の人たちに含まれて、安心して幸せに暮らしてゆける社会、思いやりの心、他人の苦しみを自分の苦しみに感ずる心、みんなの手をとり合い、助け合う心、この心が21世紀に向けての地域福祉活動であります。市浦村社会福祉協議会では、「共に生きる、明るく、福祉の村づくり」をめざしています。







# 今年辰年

辰は十二支の中で唯一の空想の動物です。

辰は十二支の中で唯一の空想の動物です。

でも、念のため、ある動物園鑑を見たら、辰は竜として載っています。「大蛇に角や猛獣、猛鳥の頭を組み合わせた伝説の動物」とあります。

辰は十二支の仲間として広く知られた存在なので、架空の動物の中でも別格なものでしょう。もちろん、最近登場した怪獣の類は園鑑に載っていませんでした。



※脚（あきと）とは、あごのこと。

「竜住む池は水枯れず」とか「竜の子は小さしといえども、よく雨を降らす」といわれるのはこのためです。

また 竜は「龍」にもしばしば登場します。

「竜吟すれば雲霧こころ」とは、英雄の決起、多くの同志がこれに従うことの意味で、英雄を竜にたとえているのです。

「竜の翼を得たること」とは強いものがさらに強くなることで、翼の代わりに水雲などということもあります。

さて、みなさんはこの新年をどんな決意でお迎えになりましたか。いすれにしても「竜頭蛇尾」に終わらないようにしたいものです。

さて、みなさんはこの新年をどんな決意でお迎えになりましたか。いすれにしても「竜頭蛇尾」に終わらないようにしたいものです。

## 家族で確認し合おう

### 今年一年の交通安全

一年の計は元旦にありし。だれでも年の始めには、その年の決意を新たにするものです。

希望校を目指して勉強するぞ、無駄遣いをなくして車を買おう、仕事に生きて商売繁盛、早起早起き……このように年の始めの決意や願いはさまざまですが、ぜひその中から、今年一年の交通安全の誓いをつけ加えてください。とくに正月は、家族全員がそろい、一家団らんひとと

交通安全事故を防げるか、日ごろの反省を込めて話し合ってください。また、正月だけに限らず、お父さんやお母さんはいつでもお子さんのよい手本となるよう行動し、機会あるごとに交通安全の大切さを教えますよう。

#### 編集室

去る十二月二十三日末明、役場庁舎焼失のため、新年号発行をとりやめることも検討しましたが、新年に期待を込めて予定通り発行することになりました。

K・K

## ぼくたち今月満1歳

昨年1月生まればくたち2人だけでした。満1歳を迎えるぼくたち元氣一杯です。



木村 弘 伸さん(十三)  
長男 智 久ちゃん



萬西 達 也さん(藤元)  
長男 俊 介ちゃん